

1 基本理念

(1) 目的

- ア 郷土松本を担うひとをつくる
- イ 心豊かに夢がふくらみ育つまちをつくる

(2) 性格

- ア 調査研究 (型ミュージアム)
- イ 交流 (型ミュージアム)
- ウ 学習 (型ミュージアム)
- エ キャリア支援 (型ミュージアム)

※ 松本学 (『基本計画』 p3)
 松本市域で培われた<人><歴史・文化><自然>の切り口で、地域社会の移り変わりや人の生き方を総合的に学び、松本の未来を創造する学をいいます。
 明日の郷土松本を担うひとづくりと市民が暮らしやすいまちづくりを目指して博物館を拠点に協働で学習します。

2 基幹博物館の機能と事業

(1) 機能 ※現在のア～ウの機能に、新規としてエ・オを追加

- ア 収集・保存 (調査研究に対応)
- イ 調査・研究 (調査研究に対応)
- ウ 展示・学習支援 (学習・キャリア支援に対応)
- エ 交流・情報交換 (交流・キャリア支援に対応)
- オ 集客・観光 (交流に対応)

(2) 事業

- ア 収集・保存
 - (ア) 松本の<人><歴史・文化><自然>に関する資料を寄贈・購入により収集し、必要に応じて保存処理を行い、良好な保存環境下で管理。
 - (イ) 収蔵資料の情報はデータベース化して、博物館事業での活用と、インターネット等で公開。

イ 調査・研究
 学芸員による調査・研究を基本とし、市民協働、大学等の研究機関、他博物館との協働も実施

ウ 展示・学習支援

(ア) 展示

- A 常設展示 ※小学校高学年が無理なく理解できる展示
 - (a) ビジター展示…四季の自然、年中行事、イベント情報
 - (b) 通史展示 …<人><歴史・文化><自然>の視点
 - (c) 民俗展示 …松本の伝統的生活文化を紹介

- B 企画展示・特別展示
- C 市民ギャラリー展示
- D 移動博物館

(イ) 学習支援

学校教育支援、松本学の推進、市民学芸員・ボランティアの養成と協働、キャリアへの支援

エ 交流・情報交換

(ア) 交流事業

地域間交流、世代間交流、市民ガイドによる交流

(イ) 情報交換事業

市民・教育機関・研究機関・国内外の博物館とのネットワークの構築、情報交換

オ 集客・観光

ビジターセンター機能の重視、観光業界への働きかけ、ミュージアムショップ等

3 施設整備

(1) 施設整備の方針

建築デザインに対する 7 つの方針の明記

(2) 施設構成

施設	面積按分	室名
収集・保存	20～30%程度	・収蔵庫 ・収蔵作業室 ・特別収蔵庫 ・車寄せ、荷解室 ・燻蒸室 ・撮影スタジオ
調査・研究	5～10%程度	・学芸員、市民学芸員室 ・学芸資料室
展示・学習支援	30～40%程度	・常設展示室 ・企画展示・特別展示室 ・展示準備室 ・市民ギャラリー
交流・情報交換	10～15%程度	・交流学習室 ・講堂
管理運営	10～15%程度	・ボランティア、友の会室 ・事務室 ・会議室 ・警備員室 ・更衣、ロッカー室 ・管理用トイレ ・機械室 ・倉庫
サービス	5～10%程度	・ミュージアムショップ ・レストラン ・カフェ ・託児室 ・ロッカー室
共通	10～15%程度	・エントランスホール ・利用者用トイレ ・廊下 その他

4 管理事業運営・組織体制

部門	内容
学芸部門	調査・研究、収集保存、展示、学習支援(講座・講演会等の開催)
事業活動部門	市民の学習活動を支援する催事・教室・ワークショップの規格・実施
市民協働部門	市民ボランティア受入れ、博物館や地域での市民活動の支援
ネットワーク部門	関連機関・団体や、松本まると博物館の連携・維持・活性化事業
広報宣伝部門	松本まると博物館の催事情報のPR、ウェブサイトによる情報発信
事務部門	施設・設備の維持管理業務、庶務業務、会計業務

5 建設場所

7つの要素(下記のア～キ)に対応できる、市街地への建設を提言

(ア 多くの市民が利用しやすい場所、イ 松本まると博物館の中核施設として求心力のある場所、ウ 観光客のアクセスの利便性が高く、文化財探訪の出発点にふさわしい場所、エ 中心市街地の活性化に貢献できる場所、オ 博物館事業に必要な施設を整備する十分な面積を確保できる場所、カ 自然・文化の薫りに恵まれた場所、キ 公共交通機関と自動車での両方の来館が可能な場所)